R7岳洋中学校「日本一への道」

1　基本構想

(1) 校訓

強く　正しく　明るく

(2) 目指す学校

岳洋愛にあふれた「日本一の学校」

ア　どんな学校？

・岳洋愛にあふれた「あいさつ」いっぱいの学校
・岳洋中校歌を、みんなが大きな声で歌える学校
・生徒が自分や仲間のために、積極的に行動できる学校

イ　生徒の具体的な行動？

日常生活

・誰に対しても、岳中愛あふれる挨拶をする。
・落ちているゴミを見つけたら、進んで拾う。

授　業

・常に時計を見て時間を意識し、進んで２分前着席の呼びかけをする。
・仲間と活発に議論したり、前に出て身振り手振りで説明したりする。

学級や生徒会活動

・悪口に対しては「やめようよ」、困っている仲間には「大丈夫」と言える。
・地域のために「〇〇しよう」、生徒会活動で「△△しよう」と提案する。

その他

・自分で決めた目標に向かって、コツコツ努力する。
・花王内外のボランティア活動へ積極的に参加する。

(3) 学校教育目標

!光り輝く！ 自信を持ち、自分の力を発揮する生徒

(4) 重点目標

岳洋中全体の目標

みんなのために「自分から考動する」

２　具体的な方策「実践４本柱」

(1) 柱１ 自己肯定感の向上

「自分には良いところがある」「自分は大切にされている」と思えなければ、勉強をがんばろう(I 自分のこと)、周りに優しくしよう(We 相手のこと)、という気持ちにはなれない。つまり、自己肯定感が高くなければ、主体性は育ちにくい。そのため、実践４本柱の中で、「自己肯定感の向上」は最も重要な取組と位置づける。

ア　光輝賞

(ｱ) 重点目標達成に向け、全校の手本となる取組をした生徒に授与する。「自己肯定感向上」のカギとなる活動。→「イ称揚のボイスシャワー」と大きく関係。

(ｲ) 大勢の受賞を目指し、良い取組を教師や生徒同士が積極的に見とる。特に、ターゲット生徒の受賞に向けてしかける。(年間 90 人目標) 表彰対象は個人。

(ｳ) 推薦と承認

①日々の称揚ボイスシャワーや、学級での相互承認等に努める。

②機が熟したところで、推薦カードを生徒指導主事に提出する。

③該当生徒については、毎週の経営委員会で、学年主任が説明する。常に、学年主任が学年職員から意見を集めておく。

④承認されたら、２週間に一回程度を目安に、昼の放送で表彰する。

(ｳ) 賞状は自宅に帰って飾れる豪華なものにする。筒に入れて大事に持ち帰り、家の人にも褒めてもらう。

(ｴ) 賞状はカラーコピーし、生徒昇降口に掲示する。継続して称揚する手立てや、本人・周りのモチベーションアップとする。また、岳中ニュースでもお知らせする。

イ　称揚のスーパーボイスシャワー

(ｱ) 日常のオーバーすぎる位の「称揚のボイスシャワー」に心がける。
「ありがとうね」「助かるよ」「ごくろうさま」でもＯＫ

(ｲ) 教師が率先垂範し、称揚の温かい雰囲気を校内中に広げる。

ウ「岳洋愛にあふれた挨拶」の称揚

(ｱ) 次のような「岳洋愛にあふれた挨拶」の実践を大いに称揚する。

・「岳中を挨拶日本一の学校にしたい」という思いがあふれた挨拶

・「地域の方や来客に、岳中って素晴らしい学校です」と伝えるような挨拶

・「自分の挨拶で、相手を気持ちよくさせたい」という思いがこもった挨拶

(ｲ) ①遠くからでも、②相手がこちらを見ていなくても、③笑顔で、④大きな声で、⑤相手を気持ち向上？　等を生徒会活動でも取り上げ、実践を称揚する。

エ　その他

(ｱ) いじめの早期発見、早期対応に努め、いじめがないことを自慢にする。

(ｲ) 教師と生徒の信頼関係の構築。(一緒に遊ぶこと◎)

(ｳ) 委員会、学級における「輝いていた人」等による相互承認の機会。

(ｴ) ステージアンケートの「自分には良いところがある」について、各学年・学級で目標を持って取り組む。(しかける)

→ 「自分は大切な存在である」と自覚でき、自己肯定感が向上する。
【指標】自分には良いところがある　→　９０％以上

(2) 柱２ たくましさの育成（自己有用感の向上）

自己肯定感に加え、自己有用感（自分は誰かの役に立っている）が高くなければ、自分に自信を持ったたくましい生徒は育ちにくい。そこで、次の２本立てで育成する。
ア　様々な体験や適切な指導を通して、外側（環境）からたくましさを育てる。
イ　自分に自信をつける等、内面からたくましさを育てる。

ア　様々な体験や指導を通して「個」を強くする。 → 外側（環境）からたくましく

(ｱ) 様々な体験活動（経験値の向上、五感教育）
- 授業における体験学習、人材活用、外部との交流。（負担になる機会増は×）
- 校外の「〇〇作品募集」「△△参加者募集」「ボランティア活動」「絵画展覧会」「音楽鑑賞会」等を積極的に勧める。
- ＡＩ時代の今だからこそ、五感を大切にする。→美しいと感じられる心が大切。

(ｲ) たくましさ育成指導
- 日常の指導→「雨が降ったら車で送迎▲」「忘れ物を持ってきてもらう▲」「宿題等がやってなくて休む▲」「仲間のちょっとした発言で傷つく▲」etc。
- 人間関係プログラム、学級活動や道徳による指導。

イ　ピカピカの表現力（武器）を身につけ、自信をつける。 → 内側からたくましく

(ｱ) 取組の中心は「総合的な学習の時間」

- 「岳洋地域のためになり、地域に発信する」探求学習の実践。
  →自分は人の役に立っている。自分が周りを動かす取組をしている。
- プレゼン能力や表現力を磨く。
  →山口氏をアドバイザーに招聘し、プレゼンや表現力向上にかかる指導を頂く。
  （効果的なプレゼン方法、将来を意識した表現力、その他 etc。）
- 「光輝発表会」を開催し、岳中生の表現力発表の場とする。【例】１年生…岳洋地域元気プロジェクト、２年生…仕事の魅力、３年生…地域に役立つ防災実践

(ｲ) 教科横断的な学習
これについて、本校は「表現力」で勝負する。日々指導する際にどの教科でも、総合的な学習の時間に培った表現力を意識して授業実践する。（次のを増やす程度で可）
①立って、皆の方を向いて発表する。丁度よい声の大きさや明るさ。
②単語は×　→「私は、△△の理由から、□□と考えました。」
③前に出て説明する機会を意図的に増やす。　※①～③を大いに称揚。

ウ　日常の「魅力ある学校づくり」

(ｱ) 学級、学年、学校で楽しい取組。→春のミニ遠足、お楽しみ会、昼休みの遊び　等
(ｲ) 日常の「居場所づくり」「絆づくり」
(ｳ) 各推進部で、次の光輝で「強肯定を増やすアイディア」を考える。

→「たくましさ」が育ち、不登校が少しずつ減少する。
【指標】学校が楽しい　→　９５％以上

(3) 柱３ 自治活動の充実

ア 「Ｌ＆Ｆアクト」の実践 → リーダー・フォロワー育成、コンテナ経営

理想は教員が注意しなくても、日常や行事等において、岳中生がみな自分たちで呼びかけ合って行動する集団の育成。

(ｱ) 上記達成のためのリーダー班活動(リーダー、フォロワー育成)により、自治活動の意識を向上させる。

①リーダーとフォロワーの理想や在り方を説明し、リーダー班活動の実践をスタート。

②主は「呼びかけ活動」→２分前に「席ついて」の、リーダー班と他の生徒(フォロワー)の声が学級中に響きわたり、自主的に行動する。

③毎日の帰りの会で、一日のリーダーぶりとフォロワーぶりを確認、承認。
→１週間で交代できるよう、お互いのために必死になって取り組む。

(ｲ) リーダー班は、以下のことも当番活動として取り組む。その結果、教室は常にきれいで、他の生徒も自分からゴミを拾うようになる。教員は放課後の確認や称揚のみ。

①移動教室の窓〆・消灯 ②放課後の窓〆・カーテン絞り ③ロッカー周り整頓
④机の整頓 ⑤ゴミ掃き・拾い ⑥教室の最終見届け 等。

イ 生徒提案による主体的な生徒会活動

(ｱ) 年間で取り組む重点事項(「あいさつ日本一)等)を設定。

(ｲ) 各ステージＰＤＣＡサイクルで行う。

Ｐ①本部で原案を練る。
②連合委員会で小柱を設定し、原案について話し合う。(第○月曜日の放課後)
③専門員会で、②で決定したことを確認する。→各専門委員が学級へおろす。

Ｄ④-1…各専門委員会、各学級、生徒一人一人が実践する。
-2…本部や各委員会が、放送や掲示で「周知・称揚・改善啓発」する。

Ｃ⑤-1…重点事項の達成状況アンケート(達成度総選挙)をとる。
-2…結果を「生徒集会」「放送」「掲示」等で全校生徒へフィードバック。

Ａ⑥本部や連合委員会で、結果をもとに改善の手立て。→次光輝の①②③へ

(ｳ) 点検活動や当番活動も大事だが、生徒の手によるクリエイティブな活動を活発に。

【例】読書量チェック結果報告 → ○「読みたい本・雑誌 総選挙」
○「㊙ 岳中図書室利用アップ作戦」

(ｴ) 光輝ごとの達成おめでとう集会、生徒会掲示板、ホワイトボードの見える化。

ウ 清掃活動に全力

(ｱ) 清掃活動は全職員が率先垂範し、徹底した活動にする。

(ｲ) 全力の「黙働清掃」と、時間いっぱいまでの「見つけ清掃」。

(ｳ) 専門委員会で「きれいなトイレ総選挙」や「校内きれいな場所写真展」等。

(ｴ) 清掃場所交代のローテーションはなるべく長いスパンで、全校統一する。

→ 自ら日常生活の課題を見つけ、解決する力を向上させる。

【指標】「みんなのために自分から考動することができた」９０％以上

(4) 柱４ 学力向上

・柱１～柱３の取組により、非認知能力を高め、それをベースにする。
・全国学力学習状況調査で、授業改善の成果を確認する。【４月 14 日、17 日】
→新学習指導要領の内容を具現化したもの。この調査ができれば、授業改善ができている証拠になる。**「全国平均を越えよう」**

ア 「読書指導と音読指導」の推進

(ｱ) 全国学調「読むこと」が高い学校は読書量が多く、その時間が確保されている。
(ｲ) 本に親しむ環境づくり
①早めに「朝読書」に取り掛かる習慣、②デジタル図書の称揚、③読聞かせ
④図書室いつでも入室＆魅力的な空間計画、⑤生徒自ら読みたい本・雑誌の購入
(ｳ) 音読指導の推進→日常の授業で音読の機会を増やす。(声に出すことの重要性)

イ 岳洋式「きく・が・わ授業」の実践

・仲間の方に体を向けて真剣に、**「聴く（きく）」** **→聴く力の育成**
まずは聴く力の育成が学力向上の源。頷きながら、イメージを膨らませる。
・自分の考えやまとめをたくさん**「書く（が）」** **→書く力の育成**
書く力の徹底育成。学習内容定着アップのため、文字言語でアウトプットする。
・大きな声でわかりやすく**「話す（わ）」** **→対話する力・説明する力の育成**
プレゼン能力の育成。根拠や理由を明確にして発表。前に出て説明。

ウ 「まとめ」の充実

※「音で広げて、文字で刻む」

文字言語で学習を深く刻む。蓄積する。
(ｱ) まとめ（振り返り）の重要性 →「何となくわかった」にしない。
・個人学習…熟考したことを「文字言語」にすることで、より確かなものに。
・まとめ…わかったことを「言語化」することで、理解力向上や新たな発見に。
(ｲ) まとめの書き方
①板書を参考にして ②仲間の発表を参考にして ③キーワードを使って
④文字数を制限して ⑤さらに考えてみたいこと
(ｳ) まとめの扱い
良い内容を発表 → 板書して**青囲み** → 生徒は追記

エ その他

(ｱ) 外部人材活用による効率化。業者（ヤマハ、学研 等）のアプリ等を効果的に活用。
(ｲ) チアアップシート等を計画的に活用し、国が身に付けさせたい学力とは何かを、教員や生徒が知る機会にする。自習の時間を積極的に活用。２年生はスペシャル学年。
(ｳ) 岳中放課後学習会（仮）の実施。毎月第一月曜日の放課後等の１時間を使って希望生徒に、元教員の地域ボランティアが勉強を教える。

→ 学力を向上させて、自分に自信を持つ。（自己肯定感向上、不登校減少）
【指標】・全国学力学習状況調査 → １教科で「平均正答率を上回る」
・「授業がよく分かる」 → ９０％以上

①上記の「4本柱」実践することにより、重点目標が達成できる。
②これらを徹底した「PDCAサイクル」で実践する。
③「見える化」と「情報発信」を心掛ける。
「目標は常に見えるところに掲示する。そして、取組の確実な振り返りと、適切な再構築ができれば、目標は達成できる。」

３　その他

(1) 主体的な行動に係る取組→「ノーチャイムデイ」

ア　水曜日の「ノーチャイムデイ」を少しずつ増やし、日常にしていく。

イ　生徒の主体的な行動実践の場とするとともに、自治活動である「呼びかけ活動」をより活発にするために行う。この活動を成功させ、称揚の場とする。

(2) 働き方改革

ア　ゆとりある教育計画とする。各学期のスタートの午前中日課を増やす。また、昼休みに連日、行事の練習や会合等を入れず、楽しく過ごす時間を確保する。

イ　全体の会議は水曜日のみ(最大１時間)。月曜日は「学級・学年の日」とし、放課後は学級(学年)の計画で運営する。

ウ　長期休業明け午前日課、成績事務週間、テスト採点時間確保 等の実施。

エ　楽しく業務改善提案をする。(山崎賞あり)

オ　その他、お楽しみ会、プレミアム〇〇デイ、光輝目標達成お祝い教職員版　等。

４　目標値

(1) みんなのために「自分から考行動する」ことができた　→目標　90%
(2) わたしには良いところがある　→目標　90%
(3) 学校が楽しい　→目標　95%
(4) 授業がよくわかる　→目標　90%
(5) 学校に信頼することができる先生がいる　→目標　90%
(6) みんなで何かをするのは楽しい　→目標　95%
(7) 授業に主体的に取り組んでいる　→目標　95%
(8) 地域や社会を良くするために、何をすべきかを考えることがある　→目標　80%
(9) 学級の生徒との話合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う　→目標　90%
(10) 授業では、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度利用したか。　→目標　99%